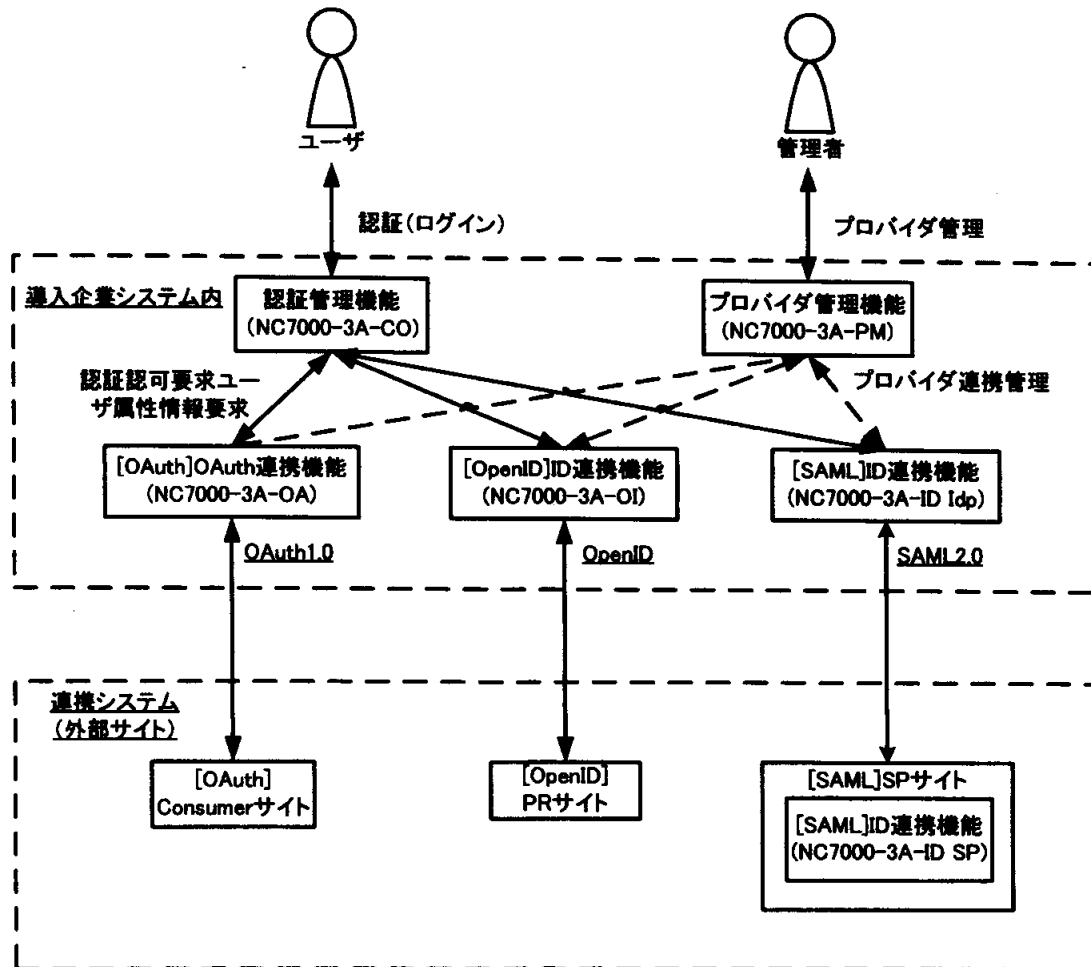
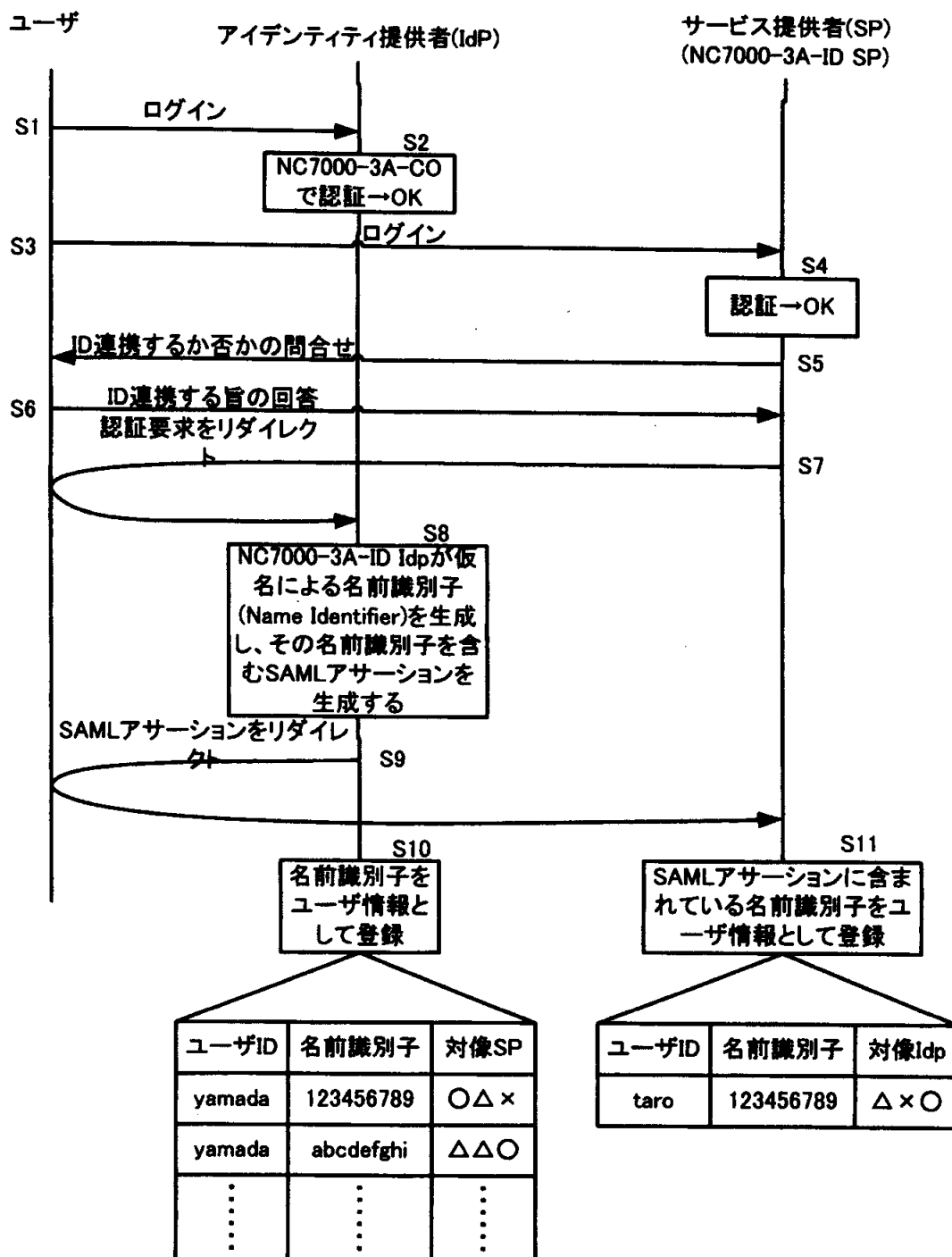


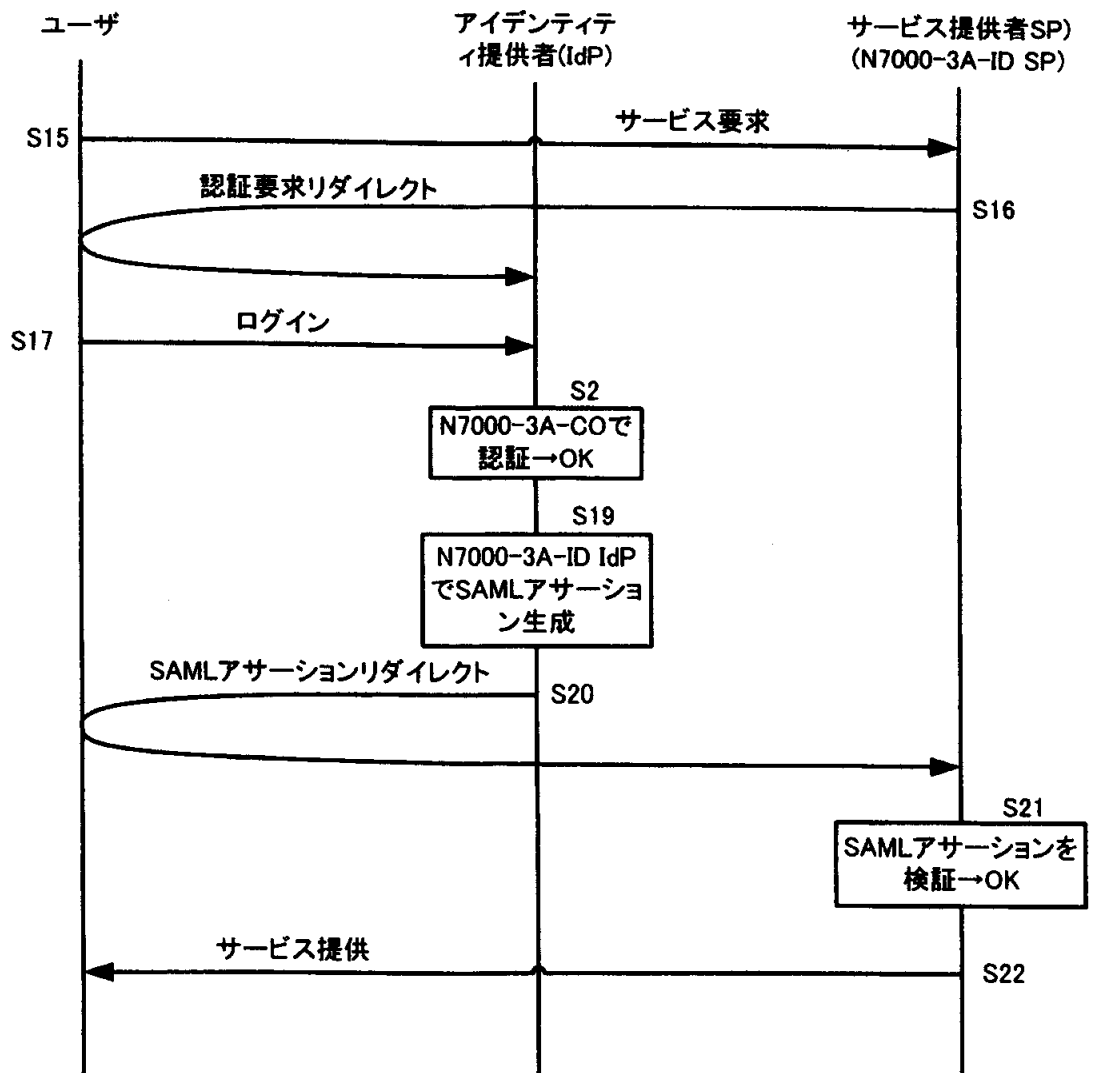
イ号図面1



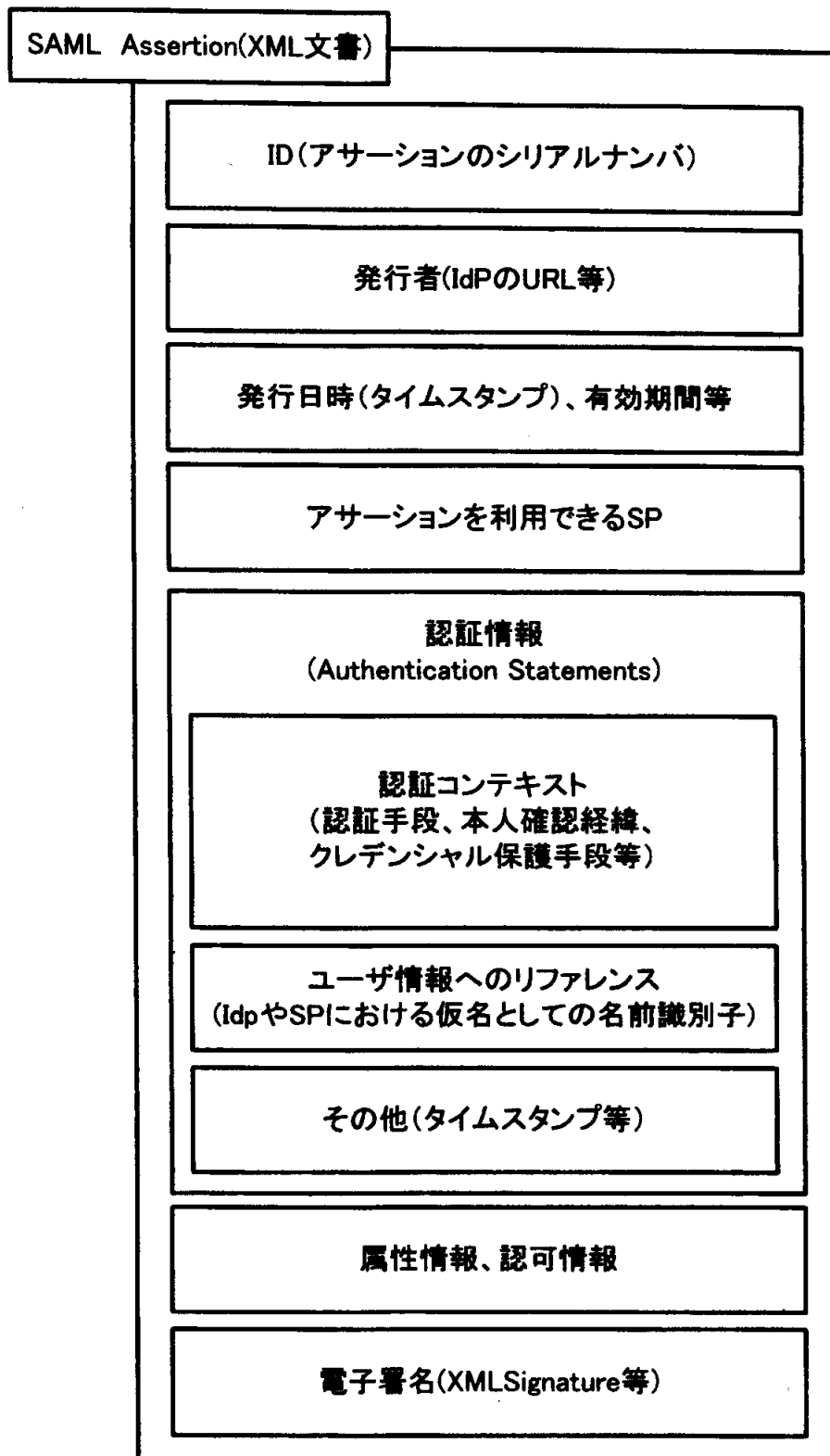
イ号図面2[SAML]ID連携機能
(アイデンティティ・フェデレーション)



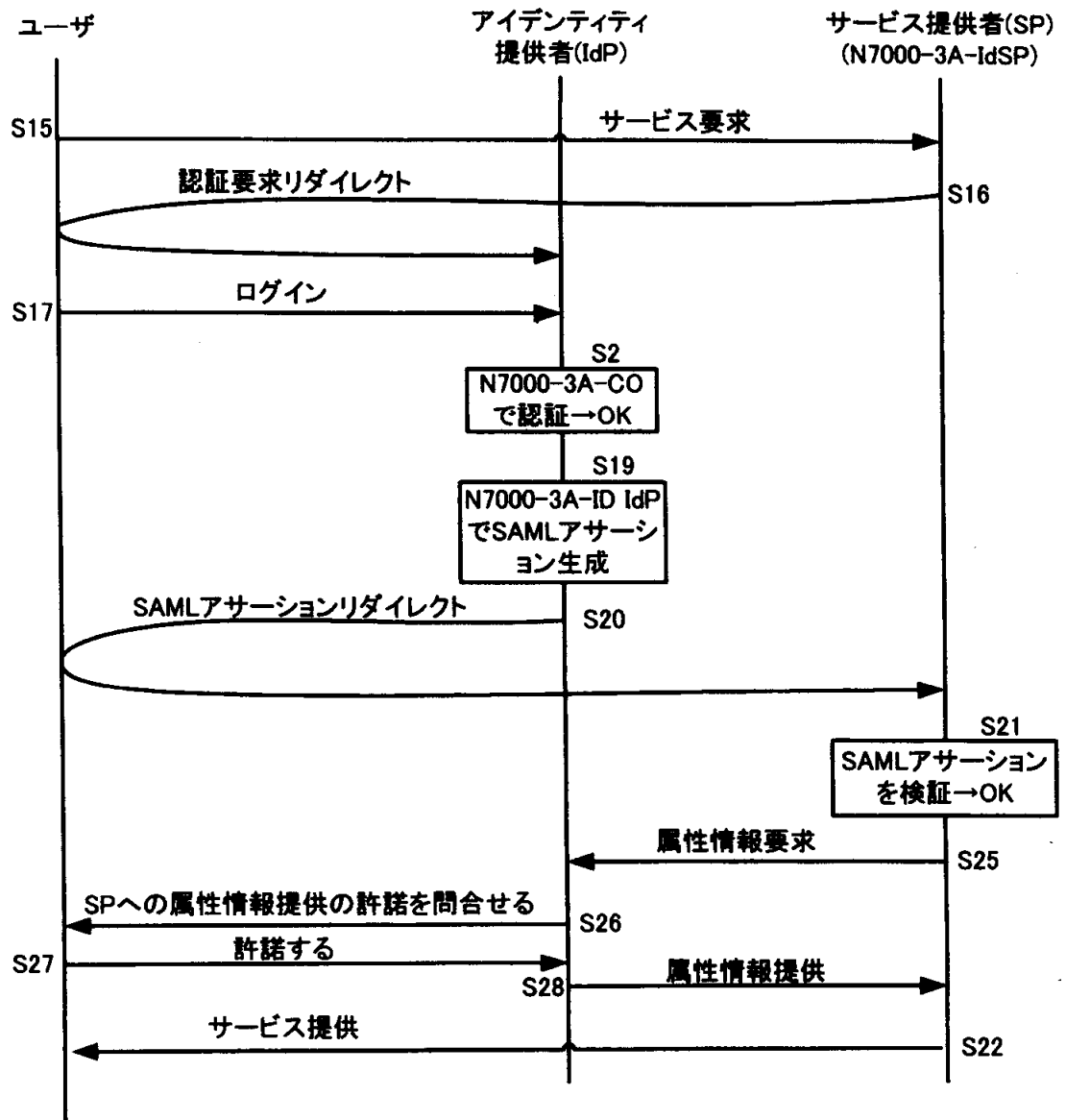
イ号図面3[SAML]ID関連機能 (シングルサインオン)



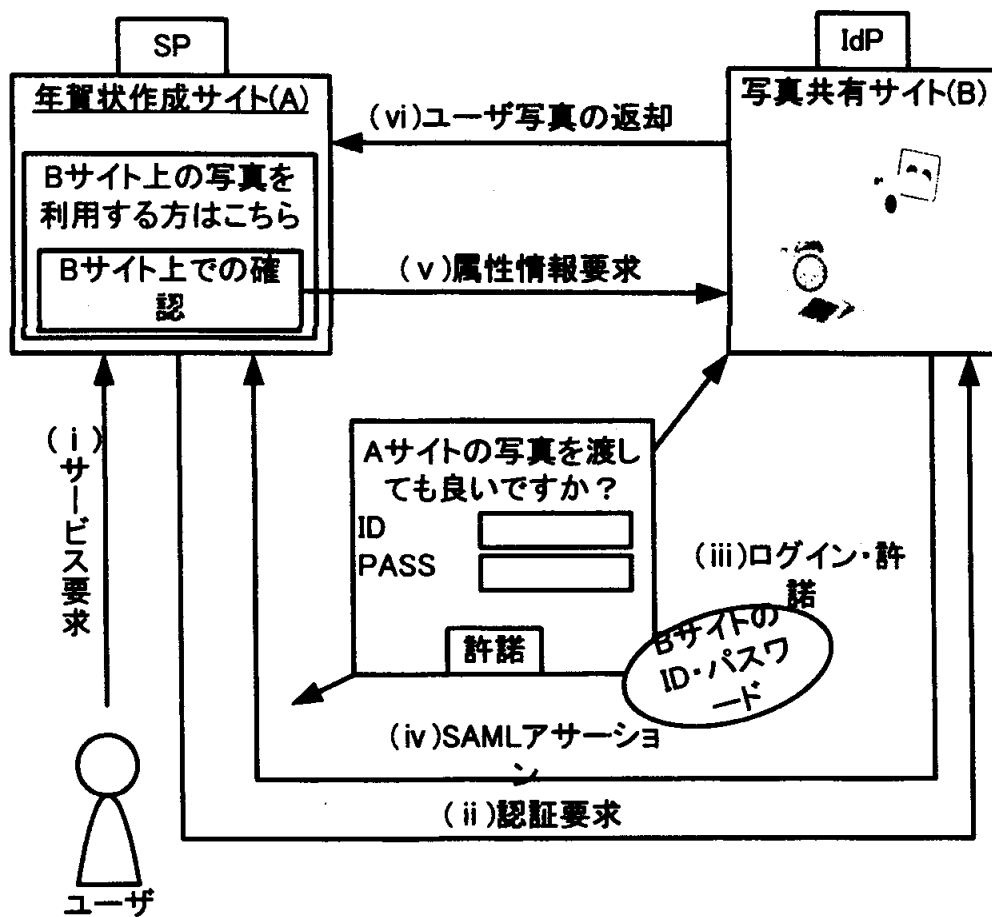
イ号図面4(SAMLアサーション)



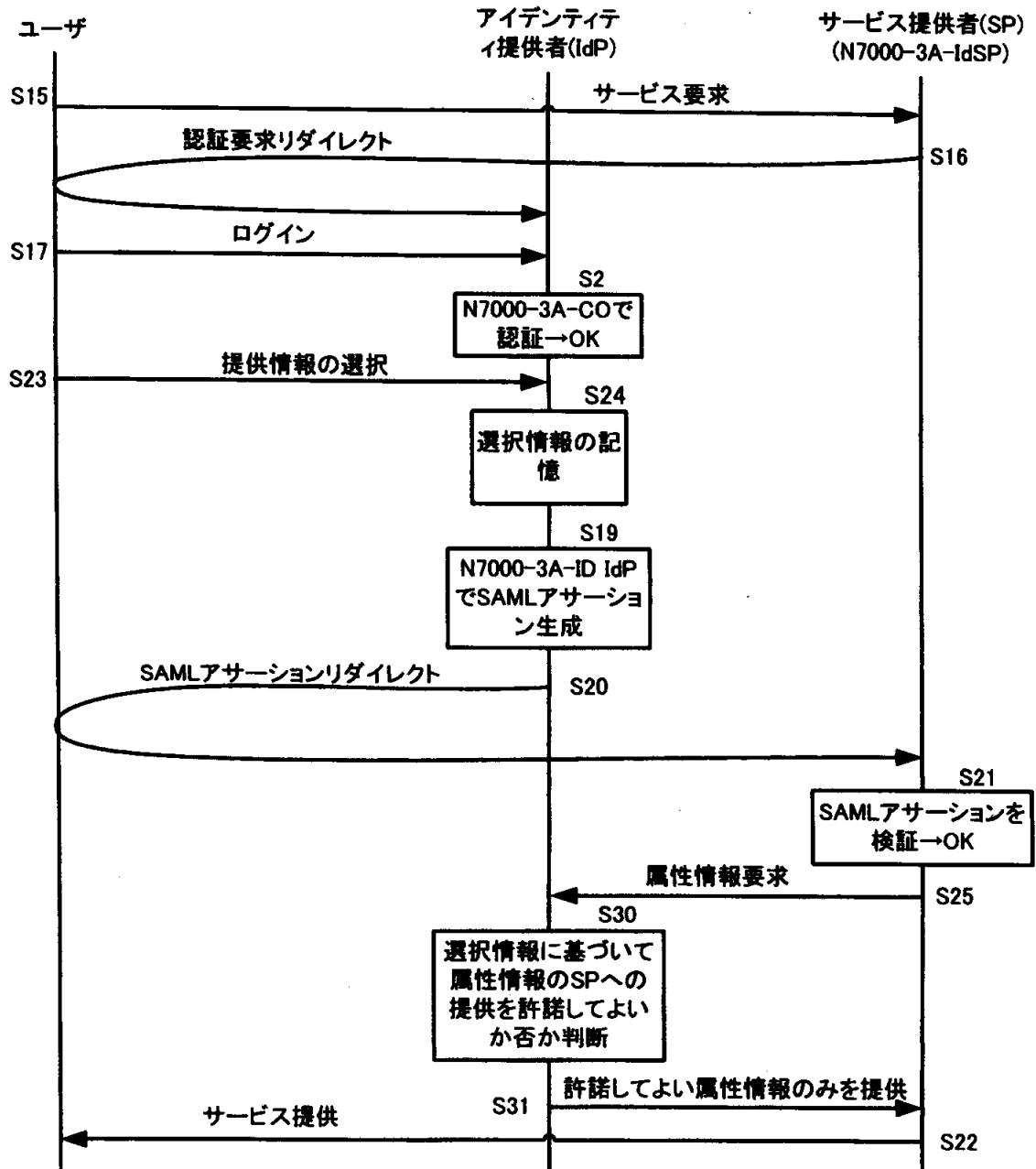
イ号図面5[SAML]ID連携機能
(属性情報の交換1)



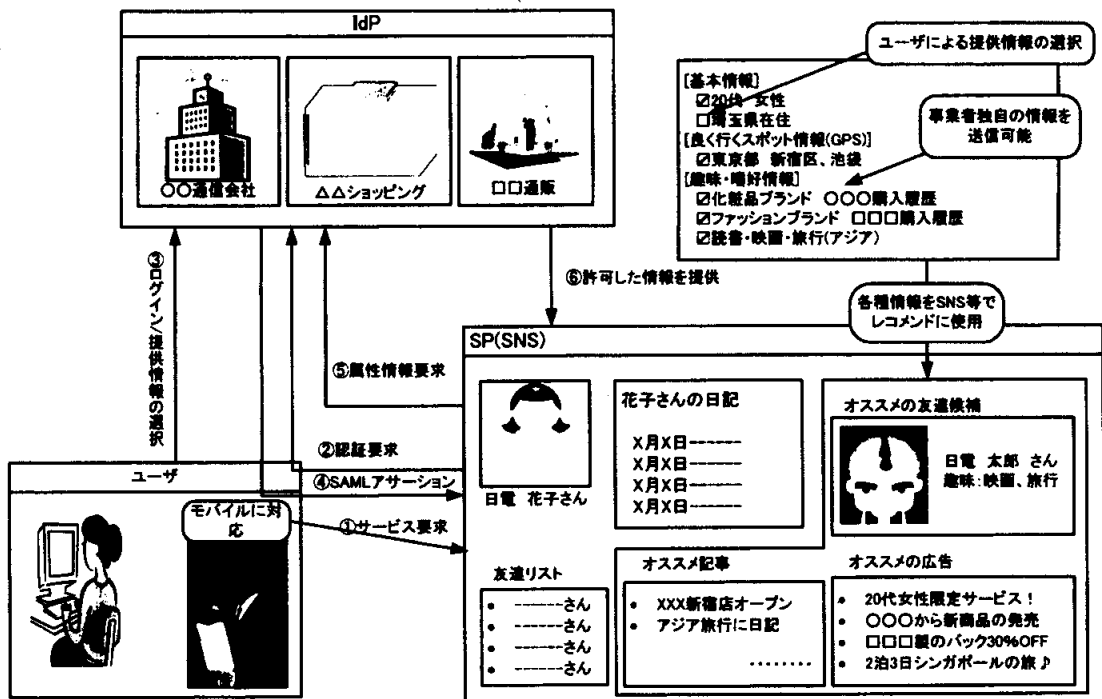
イ号図面6[SAML]ID連携機能
 (属性情報の交換1:写真共有サイトへの適用例)



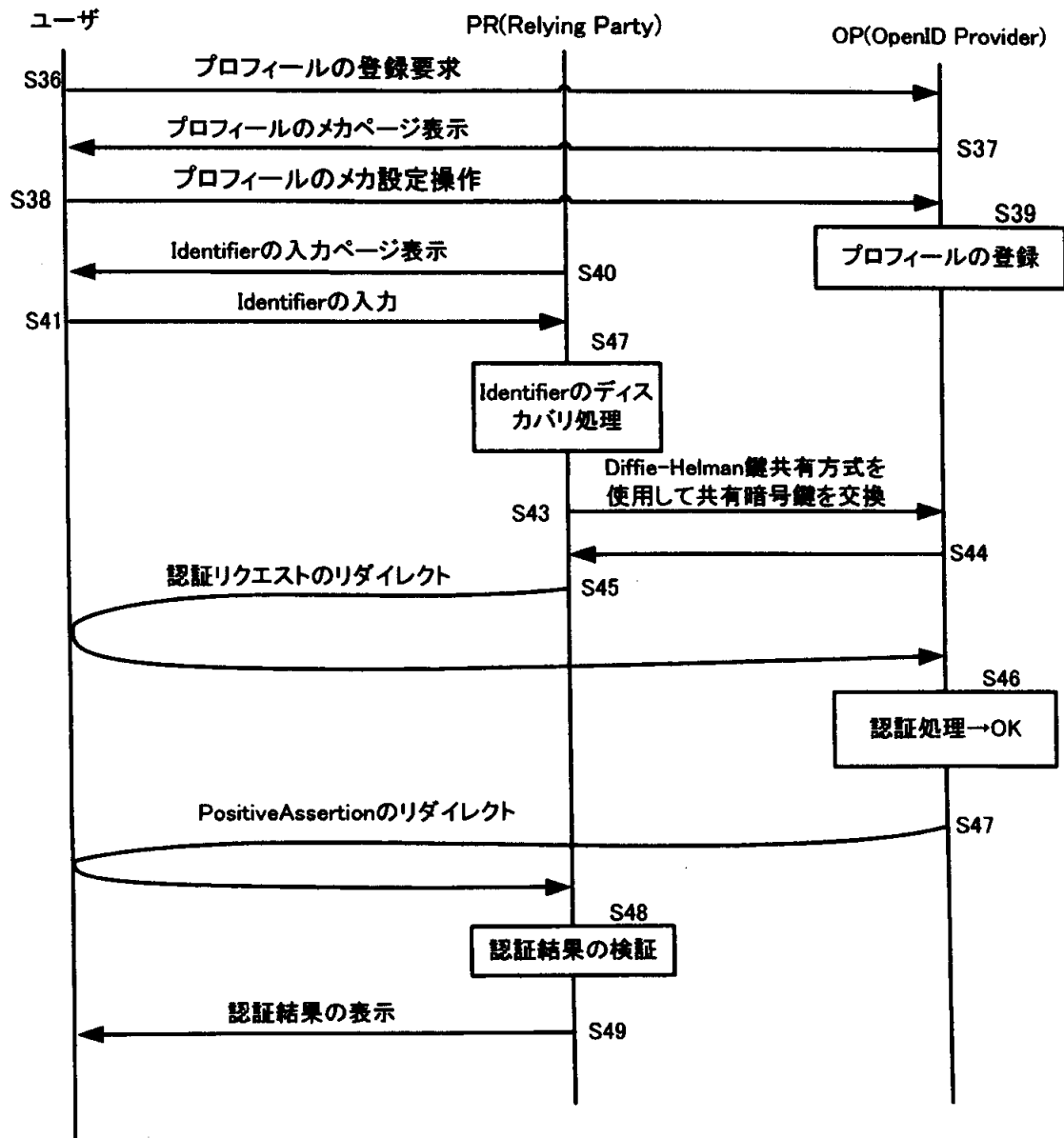
イ号図面7[SAML]ID連携機能
(属性情報の交換2)



イ号図面8[SAML]ID連携機能
(属性情報交換2:SNSへの適用例)



イ号図面9[OpenID]ID連携機能
PR(Relying Party)



イ号図面10

OpenID2.0の関連用語

用語	解説	略記
Identifier	認証に使用される識別子。URL(http,https)またはXRI(Extensible Resource Identifier)のどちらかを使用できる	—
OpenID Provider	OpenIDを提供するサービスやサーバ。OpenID1.XではIdPと呼ばれていた	OP
Relying Party	ユーザにより入力された識別子を検証するWebアプリケーションのこと。OpenIDによる認証をサポートしているコンシューマーアプリケーションを指す。OpenID1.XではConsumerと呼ばれていた	RP
OP Identifier	OPのためのIdentifier	—
OP Endpoint URL	OpenID認証プロトコルを提供するURL	—
Claimed Identifier	エンドユーザが自分が所有していると主張する識別子(URLまたはXRI)。XRIをIdentifierとして使用した場合は、XRD::CanonicalIDの値になる。この値は変化することがないので、RPにおいてユーザを一意に識別するキーとして使用する	—
User-Supplied Identifier	RPでユーザが入力したIdentifier	—
OP-Local Identifier	OPが用意するユーザのIdentifier。OPのドメインのURLになる	—

イ号図面11[OpenID]ID連携機能

Positive Assertionに含まれるパラメータ

パラメータ名	概要
openid.mode[必須]	"id_res"を指定
openid.op_endpoint [必須]	OpenID認証を提供しているエンドポイントのURL
openid.claimed_id[任意]	Claimed Identifierの値
openid.identity[任意]	OP-Local Identifierの値
openid.return_to[必須]	認証リクエスト時に指定されたリダイレクト先の(RPの)URL
openid.response_nonce [必須]	認証時の現在時刻をプレフィックスに付けた一意な値。プレフィックスにつなげる値はランダムな値なら何でもかまわない。ワンタイムパスワードのようなもので、同じOPからのリクエストにおいて同じ値を二度と利用することはできない
openid.invalidate_handle [任意]	認証リクエストにおいて不正なassoc_handleが指定された場合、このパラメータに値を指定しなければならない
openid.assoc_handle [必須]	このリクエストを暗号化するのに使用した、assoc_handleの値
openid.signed[必須]	署名に使用したパラメータ名を「,」(カンマ)区切りで指定("openid"プレフィックスは取り除く)。複数の値を指定する際は、「,」区切りで値を接続する。また、少なくとも「claimed_id」「identity」「op_endpoint」「return_to」「response_nonce」「assoc_handle」を含める必要がある。「claimed_id」と「identity」が与えられている場合は、これらも含める必要がある。セキュアなMACを生成するためにRFC 1750 [※] で定められている内容に従う必要がある
openid.sig[必須]	BASE64エンコードされた署名の値

イ号図面12[OAuth]OAuth連携機能

